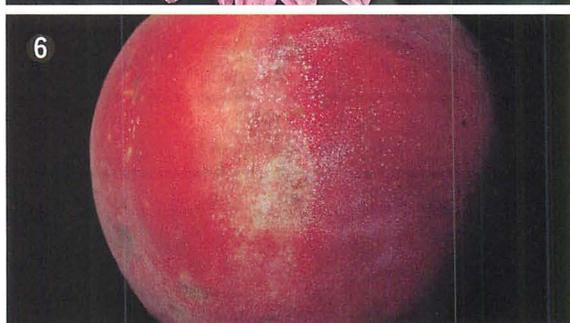


ミカンキイロアザミウマとTSWVの発生状況

(本文8ページ参照)



- ① ミカンキイロアザミウマ雌成虫
雌成虫は夏期には黄色、冬期には褐色の個体が多い。
- ② イチゴの幼果における幼虫寄生と食害
幼虫は種子周囲のくぼみに生息し、そこから黄化または褐変が進行する。
- ③ キュウリの葉の白斑
葉裏の葉脈間が食害され、え死し、白斑となる。
- ④ キクの花弁における被害状況
濃い花弁では被害部が退色する。
- ⑤ ブドウにおける幼果の白ぶくれ症状
開花始めから20日間に子房が産卵されると白ぶくれ症状となる。
- ⑥ モモにおける果皮の食害
果実の着色開始以降に寄生・食害される。
- ⑦ キクの葉におけるTSWVの諸病徴
キクの葉に現れる病徴は、a：退緑輪紋、b：えそ輪紋、c：えそ、があり、品種によって異なる傾向がある。

(原図：片山晴喜、増井伸一、加藤公彦、土井 誠 各氏)